

副専攻コース説明書

開設学部名（薬学部）

副専攻の種別とコースの名称	学術的副専攻 薬学コース
1 副専攻コースの紹介と概要	
<p>経済学部において医薬情報担当者（MR）を、生命工学部 健康栄養科学科において管理栄養士を目指しているなど、薬学部以外の学部・学科に所属していて、将来医療や医薬品に関する仕事に従事することを志している学生を対象として薬学コースを開講します。本コースでは、薬の基本的性質や作用メカニズムの知識、さらに医薬品販売に関する知識などを修得することができます。</p>	
2 副専攻コースの開始時期と副専攻コース選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)	
<p>本コースは、薬学の基礎知識を学ぶための1年次配当科目から開始して、薬学の専門知識を深める2年次配当科目、薬物治療について学ぶ3、4年次配当科目と学年進行に伴い順次履修することを原則とします。</p> <p>本コースの履修申請は、2年次前期以降の履修登録期間に行うことができます。ただし、下の8の欄に記載しているように、履修希望者の受入上限人数を設定していますので、皆さんの希望にそえない可能性もあります。詳しくは8の欄を見てください。</p> <p>本コースの履修に関して、既修得要件は特にありません。</p>	
3 副専攻コースの履修について	
<p>(1) 副専攻コースの到達目標</p> <p>到達目標として、本コースの授業科目の履修を通じて、次の3つの薬学に関連した知識の修得が挙げられます。このことで、薬を物質的側面から考え、その生体内での作用メカニズムの理解が深まり、さらには新薬の開発に関する考え方も身に付けることができるようになることを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬についての基本的な化学的及び物理的性質に関する知識の修得 ・薬の作用メカニズムに関する基本的な知識の修得 ・新規医薬品の開発に関する知識の修得 <p>(2) 副専攻コースを履修する上の注意点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 薬学部1年次配当科目から高学年次配当科目へ、順次履修していくことを原則とします。専門基礎科目（導入教育科目）の3科目はすべて履修してください。ただし、分析化学I、基礎化学、機能形態学Iは、それぞれ主専攻学部・学科で開講されている無機化学、有機化学、生物学に関連した科目からの読み替えが可能です。 2 本コースは、薬学部以外の学部・学科所属の学生が履修できます。ただし、履修申請を行う時点までの累計GPA値が3.0以上であることが条件となります。 3 所属学科の授業時間割との関係で、登録した副専攻コースの授業科目の履修が制限される場合があります。 	

4 教育内容

本コースは、専門基礎科目に加えて、専門科目として、物理・分析系、化学系、生物系、衛生・法制度系、並びに医療薬学系の科目群から構成されています。3欄の（2）に記載しているように、専門基礎科目は3科目6単位が必修であり、これらを修めることで2年次以降の薬学専門科目の理解が深まります。専門科目については、5つある系からそれぞれ選択必修科目を1科目以上修得する必要があり、修了要件として専門基礎科目及び専門科目を併せて20単位修得するように定めています。これらの学修により、薬学で必要となる基本知識を体系的に学ぶことができ、実社会で役立つ薬学に関連した資質を伸ばすことができます。

5 科目及び授業内容

本コースの授業科目については別添の授業科目配当表を参照してください。

各科目の内容については、各年度に公開される当該科目のシラバスを参照してください。

6 評価

（1）試験・成績評価

講義科目では原則として定期試験を行いますが、毎回実施する小テストの点数等から総合的に成績評価を行う科目もあります。各科目の成績評価の方法は当該科目のシラバスに記載しています。

（2）修了要件

本コースの授業科目から、**必修科目3科目6単位（○）**、並びに**専門科目各系についてそれぞれ選択必修科目（△）1科目以上の単位を含む、計20単位以上**を修得した者に、卒業時に副専攻（薬学コース）の修了証書を授与します。

7 副専攻コースの責任体制

本コースの修了認定は、薬学部の学部教授会が行います。

本コースに関わる事務は、教務課と薬学部事務室が協力して行います。

8 副専攻コース履修希望者の受入上限数

各入学年次生について**10名**を上限とします。

2年次の年度初めの履修登録期間における履修希望者が上記の定員を超えた場合には、前年度までの累計GPA値が高い者を優先します。なお、定員に空きが生じている場合には、2年次後期以降の履修登録期間にも履修者の募集を行います。

9 副専攻コースの既修得単位等の認定単位数等

履修申請時に、別添の本コースの授業科目配当表に記載されている専門基礎科目に相当する内容の自学科目の単位を既に修得している場合、副専攻履修申請書（様式第2号）の裏面の表に必要事項を記入すれば、それらの科目の単位は、薬学部教授会の議を経て本コースの修了要件単位に算入される場合があります。

学術的副専攻(薬学コース)授業科目配当表

科目区分		授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
					前	後	前	後	前	後	前	後	
薬学部 薬学科 専門教育科目	専門基礎科目	PP5MBS1280 分析化学 I	○	2	●								導入教育科目
		PP5MBS1360 基礎化学	○	2	●								導入教育科目
		PP5MBS1440 機能形態学 I	○	2	●								導入教育科目
	分物系	PP6PHY1120 物理化学 I		1		●							この系から選択必修科目(△) 1科目以上の単位修得が必要
		PP6PHY2120 物理化学 II		1			●						
		PP6PHY2270 放射薬品学	△	1				●					
		PP6PHY2320 分析化学 III	△	1				●					
	化学系	PP6CHE1120 有機化学 I		1	●								この系から選択必修科目(△) 1科目以上の単位修得が必要
		PP6CHE2170 生薬学	△	2			●						
		PP6CHE2270 天然物化学 I	△	2				●					
	生物系	PP6BIO1120 機能形態学 II	△	2		●							この系から選択必修科目(△) 1科目以上の単位修得が必要
		PP6BIO2160 機能形態学 III		1			●						
		PP6BIO1270 微生物学	△	2		●							
		PP6BIO1320 分子遺伝学 I		1		●							
		PP6BIO2120 生化学 I	△	2			●						
		PP6BIO2170 分子遺伝学 II	△	2			●						
	法衛制度系	PP6HLS3120 環境衛生学	△	2					●				この系から選択必修科目(△) 1科目以上の単位修得が必要
		PP6HLS3140 食品衛生学	△	2						●			
		PP6HLS4120 公衆衛生学	△	2						●			
	医療薬学系	PP6CLP1100 漢方医学概説		1	●								この系から選択必修科目(△) 1科目以上の単位修得が必要
		PP6CLP1160 漢方薬物治療学	△	2		●							
		PP6CLP2120 薬理学 I	△	2			●						
		PP6CLP2200 薬理学 II	△	2				●					
		PP6CLP2280 薬物治療学 I	△	1					●				
		PP6CLP2320 臨床検査概論	△	2					●				
		PP6CLP3200 生物薬剤学	△	2						●			
		PP6CLP3280 物理薬剤学	△	1							●		
		PP6CLP4240 医薬品情報学	△	2							●		